

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00834

研究課題名(和文) マルクス口述・エンゲルス筆記説に基づく『ドイツ・イデオロギー』テキストの再構成

研究課題名(英文) Reconstruction of the Text of "German Ideology" on the basis of a Hypothesis of Dictation

研究代表者

窪 俊一 (KUBO, Shunichi)

東北大学・情報科学研究科・准教授

研究者番号：50161659

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、申請者の研究グループがその方法を提案し、妥当性を証明した、『ドイツ・イデオロギー』第1章草稿は、マルクス口述/エンゲルス筆記という仮説をさらに推し進め、新MEGA先行版(2004)を抜本的に再構成し、一般の研究者が第1章草稿の口述筆記説を容易に検証でき、テキスト成立史の核をなす異文研究で、新MEGAよりも遙かに汎用性がある形で、つまり、テキスト成立過程を可視化して公表した。また、本研究は、エンゲルスが史的唯物論の成立を主導したという見解を、理論的内容の点からも再検討し、同草稿の完成に果たしたマルクス/エンゲルス双方の役割を確定して、オーサーシップ論争の決着を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来の『ドイツ・イデオロギー』のオーサーシップ論争に終止符を打つべく、草稿作成のイニシアティブをとったのがマルクスだと推測されるという研究成果に基づいて、新MEGA先行版を抜本的に再構築し、一般の研究者が第1章草稿の口述筆記説を容易に検証でき、テキスト成立史の核をなす異文研究で、新MEGAよりも遙かに汎用性がある形で、つまり、テキスト成立過程を可視化して、第1章草稿の新編集版を編集し、オンライン版として公表した。また、第1章草稿の完成に果たしたマルクス/エンゲルス双方の役割を確定して、オーサーシップ論争の決着を図った。

研究成果の概要(英文)：This study hypothesizes that the first draft of the Feuerbach chapter in the "German Ideology" was dictated by Marx/written by Engels, and on the basis of this hypothesis, proposed and confirmed by our research group, the earlier version of the MEGA (2004) is radically reconstructed. The online edition of the "German Ideology" published by our group (<http://online-dif.com/index.html>), which is the core of the textual genesis, is published in a more versatile form than the new MEGA, i.e., it visualizes the process of creation of the text. This study also reviewed the view that Engels led the formation of historical materialism in terms of its theoretical content and determined the role of both Marx and Engels in the completion of the first draft of the "German Ideology," thus settling the controversy over authorship.

研究分野：メディア情報学

キーワード：ドイツ・イデオロギー マルクス/エンゲルス 史的唯物論 口述筆記 オーサーシップ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

マルクスあるいはエンゲルスのいずれかがイニシアティブをとり、『ドイツ・イデオロギー』を作成したのかという研究は100年近い歴史がある。特に第1章「フョイエルバッハ」草稿(以下「第1章草稿」)が注目されてきた。ここで初めて2人に独自の歴史観=史的唯物論の主要命題が登場するからである。第1章草稿の基底稿(最初に成立した正書法上完結性があるテキスト)の筆跡は殆どエンゲルスである。この筆跡に着眼する限り著者=史的唯物論の創始者はエンゲルスと目される。しかし当のエンゲルスは後年『共産党宣言』の英語版序文(1888)等でこれを否定する発言をしている。1921年にG.Mayerは共同執筆説を提唱しマルクスの悪筆に比べてエンゲルスの書体は読み易かったので2人は事前に相談し、結果をエンゲルスが紙上に移したと述べたが異論もあった。1926年にD. Rjazanovが折衷案を提示し前半(M1-35)はマルクス口述・エンゲルス筆記、後半(M40-72)はエンゲルスの単独執筆とした。1964年に廣松渉がこの異論を取り上げ第1章草稿の基底稿がエンゲルスの筆跡なら、執筆のイニシアティブを取ったのも、史的唯物論発見の主導者も、エンゲルスだと述べた。

申請者の研究グループは、挑戦的萌芽研究(「『ドイツ・イデオロギー』のオーサーシップに関する実証的研究」2016-2017年度/課題番号:16K13159)で、この未解決の問題に、文献学的・編集学的観点からアプローチして最終的解答を与えることを試みた。草稿オリジナルと解読原稿を照合比較することで、書体は確かにエンゲルスのものであるが、膨大な即時異文はマルクスに由来すると推断する他なく、結局、この部分はマルクスが口述、エンゲルスが筆記したものであり、草稿同章の作成でイニシアティブをとったのはマルクスだと推測されることを確認した。

2. 研究の目的

本研究は、申請者の研究グループがその方法を提案し、その妥当性を証明した、第1章草稿は、マルクスの口述をエンゲルスが筆記したとする仮説をさらに推し進め、(1)新MEGA(Marx-Engels-Gesamtausgabe/マルクス・エンゲルス全集)先行版(2004)を抜本的に再構成し、一般の研究者が第1章草稿の口述筆記説を容易に検証でき、テキスト成立史の核をなす異文研究で、新MEGAよりも遙かに汎用性がある形で、つまり、テキスト成立過程を可視化して、第1章草稿の新編集版を編集・公表することを目指すものである。そして、(2)国内の研究史で本研究は、エンゲルスが史的唯物論の成立を主導したという廣松渉らの見解の対極にあることに鑑み、理論的内容の点からも廣松仮説の妥当性が消失していることを明確にし、併せて第1章草稿の完成に果たしたマルクス/エンゲルス双方の役割を確定して、オーサーシップ論争の決着を図ろうとするものである。

3. 研究の方法

本研究では、『ドイツ・イデオロギー』第1章オリジナル草稿の精細画像と、Marx-Engels-Jahrbuch 2003(新MEGA先行版)及び新MEGA第1部門第5巻(2017)の本文テキスト及び異文一覧の即時異文、後刻異文のテキストとの照合精査を行い、両版の即時異文の補完と後刻異文表記の補正を進めた。そして、異文を従来のように別置するのではなく、テキストに組み入れることが必要不可欠と考えた。しかし、廣松版や他の諸版のように、即時異文と後刻異文とを混交して組み入れると問題の所在を確認することさえ困難である。組み入れはあくまで異文の成立時期を勘案し、基底稿を分水嶺に、(1)基底稿+即時異文、(2)基底稿、(3)基底稿+後刻異文3種のフルテキストを作成するのが肝要である。(1)は口述筆記説の検証を容易にするであろう。(2)はマルクスが最初に口述した史的唯物論の素案を具体的かつ詳細に示し、(3)は第1章草稿の最終

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

稿完成に果たしたマルクス/エンゲルス双方の役割を文献実証するのに貢献する。

本研究では、この考えに基づいて、『ドイツ・イデオロギー』のオンライン版を作成し、全世界に向け公開した(2019年8月)。オンライン版のドイツ語版デジタルテキストはいくつかのレイヤーから成るが、最も重要なのは、基底稿+即時異文、基底稿、基底稿+後刻異文の3つのレイヤーである。新MEGAテキスト部は同一である。この新MEGAテキスト部のテキストから、新MEGAの異文一覧を参照して、「削除」、「置換」、「挿入」、「順序変更」を復活・削除・元に戻すことを行い、基底稿を作成した。そして、この基底稿に、即時異文の削除箇所を組み入れ、基底稿+即時異文を編集した。この即時異文および後刻異文の批判的検証作業の結果、『ドイツ・イデオロギー』第1章「フョエルバッハ」草稿がマルクスの口述をエンゲルスが筆記したとする我々の研究仮説の正しさが証明できた。

以上に加えて本研究では、新MEGAの抜粋ノート/書簡巻で紹介された第1章草稿マルクス主導説を内容面から根拠付ける文献上の事実的な関係を網羅的に蒐集・整理した。また、廣松仮説を徹底し、基底稿=エンゲルス vs 後刻異文=マルクスという枠組みから第1章草稿を読み解き、2人の間に全く異なる歴史観が存在すると断じた望月清司の見解を取り上げ、典拠に遡った内在的批判を行い、理論内容の面からも、第1章草稿の口述筆記説を確証した。

4. 研究成果

本研究は、第1章草稿を文献学的・編集学的な実証研究に基づき、第1草稿が、マルクス口述・エンゲルス筆記によって成立したものを結論付け、『ドイツ・イデオロギー』テキストを再構成し、その成果を『ドイツ・イデオロギー』のオンライン版(<http://online-dif.com/>)として公開した。この研究成果は、2018年10月に武漢大学(中国)で開催された国際シンポジウムでも発表し、高評価を得た。また、本オンライン版を評価・検討するために国内外の研究者を招いて国際シンポジウム(2019年8月23日/24日、東北大学)を開催した。

この口述筆記説に基づく第1章草稿の成立過程の解明=可視化により、関連する従来説の批判的超克が可能となったと言える。新MEGA1/5の刊行(2017)とともに、本研究成果のオンライン公開によって、一般の研究者にも本研究課題の成果が容易に理解できるようになっただけでなく、新MEGAとの相乗作用で、『ドイツ・イデオロギー』第1章草稿研究の基礎・出発点となる資料を提供し、史的唯物論の成立史研究を新たな高みに押し上げることが期待される。

[Home](#) [Preface](#) [About](#) [How to use](#) [Acknowledgement](#) [Terms of use](#) [Contact](#)

The German Ideology

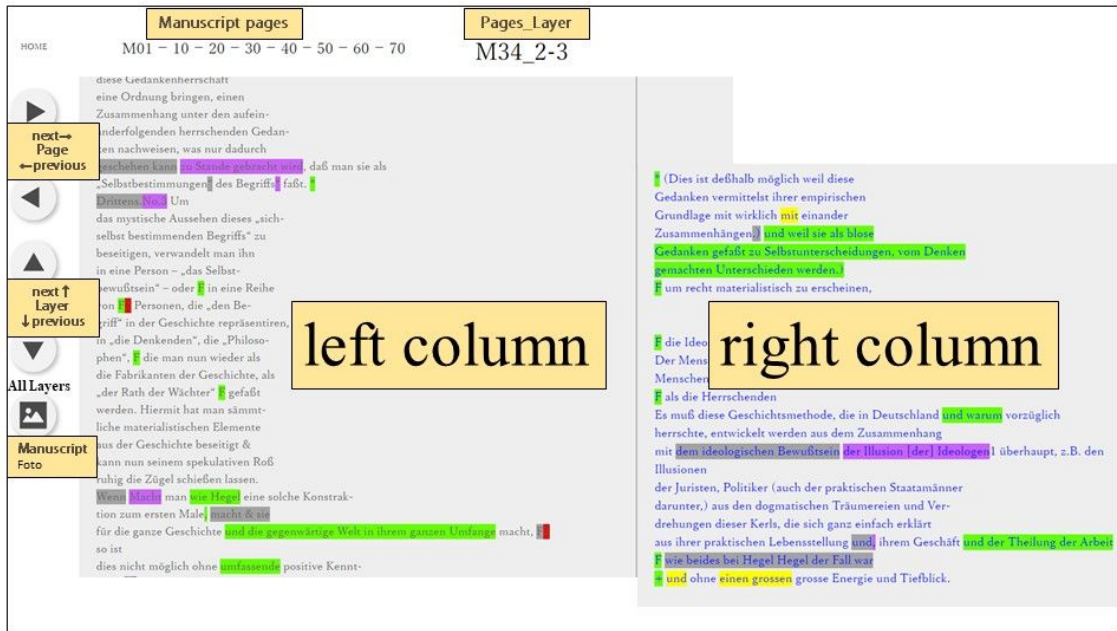
Online Edition

[START](#)

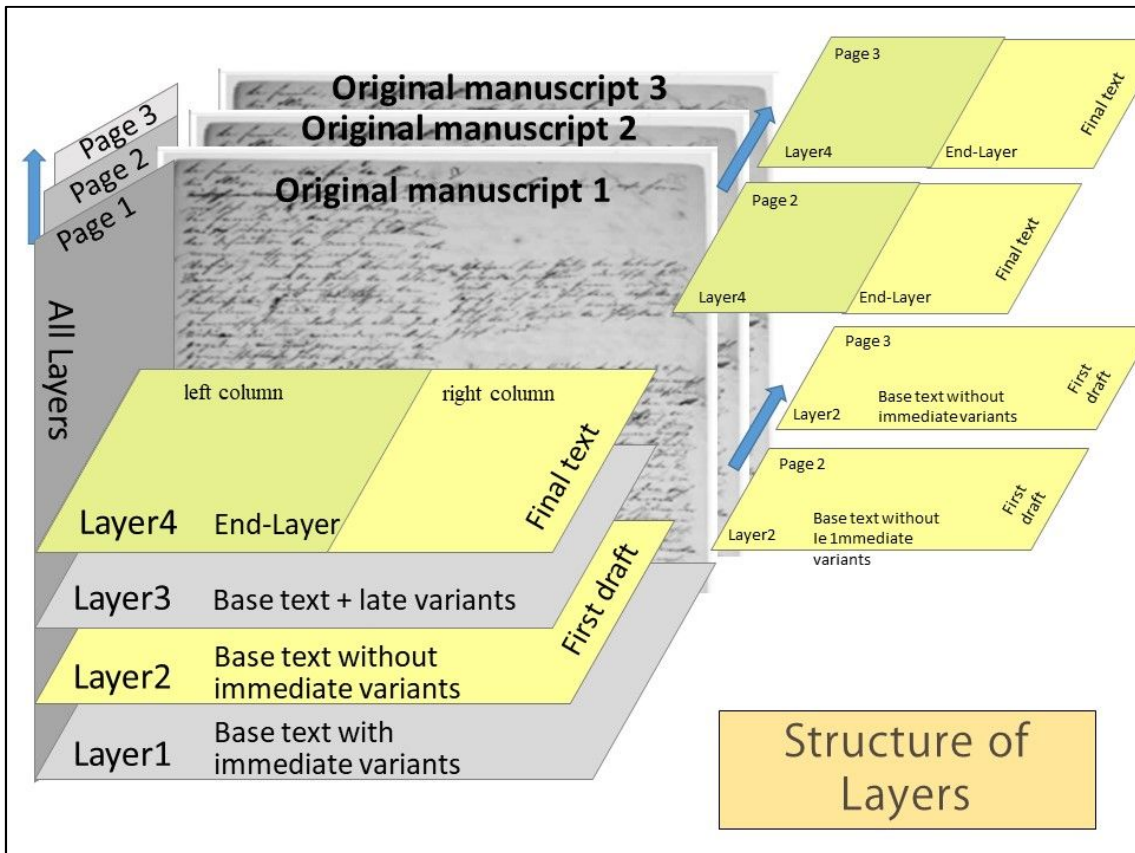


<http://online-dif.com/index.html>

Marx/Engels: German Ideology – Feuerbach Chapter
Online Edition



オンライン版の画面構成



オンライン版のLayer 構造

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大村泉	4. 巻 72
2. 論文標題 《ドイツ・イデオロギー》フォイエルバッハ章に関する研究の盲点と再考察（中国語）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武漢大学学報	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大村泉/窪俊一/渡辺憲正	4. 巻 60/61
2. 論文標題 新MEGA第1部門第5巻の「解題」「成立と伝承」関連テキスト略号一覧	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究	6. 最初と最後の頁 77-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 玉岡敦/窪俊一/大村泉/渡辺憲正	4. 巻 60/61
2. 論文標題 解題[新MEGA第1部門第5巻]	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究	6. 最初と最後の頁 79-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大村泉/窪俊一/渡辺憲正	4. 巻 60/61
2. 論文標題 成立と伝承[H5：フォイエルバッハ章のための草稿の束]	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究	6. 最初と最後の頁 151-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本直樹	4. 巻 56
2. 論文標題 唯物史観と新MEGA版『ドイツ・イデオロギー』大村 泉 編著 [社会評論社, 2018年]	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Omura	4. 巻 25
2. 論文標題 Re-examining the authorship of the Feuerbach chapter in The German Ideology on the basis of a hypothesis of dictation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The European Journal of the History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 808-832
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09672567.2018.1523940	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Shunichi Kubo
2. 発表標題 Concept of Online Edition
3. 学会等名 International Symposium - German Ideology and the materialistic conception of history
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Izumi Omura
2. 発表標題 Online Edition and Problem of Authorship
3. 学会等名 International Symposium - German Ideology and the materialistic conception of history
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norimasa Watanabe
2. 発表標題 How and When did the Ideology Criticism Emerge?
3. 学会等名 International Symposium - German Ideology and the materialistic conception of history
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shunichi Kubo
2. 発表標題 Concept of the online edition of the manuscripts of the 1st chapter "Feuerbach" of the "German Ideology"
3. 学会等名 Capitalist Crisis and Marx's Critical Theory in Memory of the 200rd Birthday Anniversary of Karl Marx, Wuhan University(China) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Izumi Omura
2. 発表標題 The First Discoverer of the Materialist Conception of History
3. 学会等名 Capitalist Crisis and Marx's Critical Theory in Memory of the 200rd Birthday Anniversary of Karl Marx, Wuhan University(China) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大村泉・窪俊一
2. 発表標題 唯物史観と新MEGA版『ドイツ・イデオロギー』
3. 学会等名 マルクス生誕200周年記念国際シンポジウム：21世紀におけるマルクス（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大村泉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 304
3. 書名 唯物史観と新MEGA版『ドイツ・イデオロギー』	

1. 著者名 窪俊一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 126
3. 書名 「ドイツ・イデオロギー」研究の新展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

The German Ideology - Online Edition - http://online-dif.com/index.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	大村 泉 (OMURA Izumi) (50137395)	東北大学・経済学研究科・名誉教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 憲正 (WATANABE Norimasa) (50158648)	関東学院大学・経済学部・名誉教授 (32704)	
研究分担者	橋本 直樹 (HASHIMOTO Naoki) (50180831)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・名誉教授 (17701)	
研究分担者	石井 穰 (ISHII Jou) (10587629)	関東学院大学・経済学部・教授 (32704)	
研究分担者	田淵 太一 (TABUCHI Taichi) (50242136)	同志社大学・商学部・教授 (34310)	
研究分担者	久保 誠二郎 (KUBO Seijiro) (80400216)	東北大学・経済学研究科・博士研究員 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 German Ideology and the materialistic conception of history -The online edition of German Ideology will be released -	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------